

リーディングDXスクール事業【実践事例】

相馬市立中村第二中学校（福島県）

【取組内容①】 Google Meetを用いた遠隔地との交流授業の実施（理科-未来の教室充実事業）

工夫した
ポイント

Google Meetを活用し、遠隔地にある学校と本校をリアルタイムでつなぎ、それぞれの所在地の気象を比較することで学習内容の深化を図った。

〈授業の実際〉 単元名「天気とその変化」

主な学習活動

他地域における気象現象がもたらすめぐみと災害についての発表を聞き、自分たちの地域と比較する。

1 本時のねらい

他地域における気象現象がもたらすめぐみと災害についての発表を聞き、自分たちの地域と比較することで、自然と人間のかかわり方について、自分の考えを表現することができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

電子黒板

Google Meet

遠隔地の学校と意見を
交流する生徒の様子

授業を進行する教師の様子

3 活用のポイント

主な学習活動	ICT機器活用のポイント
気象現象が生活にもたらす影響について、両校の発表を行い、発表から気付いたことについて、リモートで話し合い活動を行う。	(Google Meet)リアルタイムで離れた地域の生徒の考えを聞くことで、より考えを深めることができる。

4 活用効果

生徒たちは、遠隔地の学校の生徒と発表し合うことで他地域における気候の特徴やそれらによってもたらされる生活への影響について、理解を深めることができた。また、他地域の生徒の発表から、新たな知識や疑問をもち、質問等をする姿も見られた。自分の住んでいる地域と他地域を比較することで、気象現象がもたらすめぐみや災害について理解を深めるとともに、自分の住む地域の良さを再発見することもできた。